

平成28年度 石川地域づくり円陣

開催報告書

■開催日 平成29年1月7日（土）

■会場 金沢市文化ホール(金沢市高岡町15番1号 TEL:076-223-1221(代) FAX:076-223-1299)
2階 大集会室、1階 喫茶紅梅（交流会）

■プログラム

10:30～12:00 石川地域づくり表彰

表彰状授与

受賞団体による活動紹介

審査講評

受賞団体代表者と協会コーディネーターによるパネルトーク

13:00～15:00 ちい1グランプリ

ステージCMタイム

ブースPRタイム（投票タイム）

15:00～17:00 全体会

パネルトーク「地域づくりトークライブ」

ちい1グランプリ結果発表

17:30～19:00 交流会

■内容報告

1. 石川地域づくり表彰

(1) 主催者挨拶 石川地域づくり協会会長 東高士

(2) 石川地域づくり表彰授与

石川地域づくり賞団体部門優秀賞 NPO 法人おとぎの杜

〃 〃 〃 能美市商工女性まちづくり研究会

〃 〃 奨励賞 NPO 法人加賀市観光ボランティア大学

〃 〃 〃 大聖寺文化研究会

〃 〃 〃 千里浜砂像協会

(3) 審査講評

谷本互審査委員会座長による講評（大湯章吉審査委員代読）

(4) 受賞団体活動紹介

①NPO 法人おとぎの杜

②能美市商工女性まちづくり研究会

③NPO 法人加賀市観光ボランティア大学

④大聖寺文化研究会

⑤千里浜砂像協会

(5) パネルトーク

森山奈美コーディネーター進行による受賞団体代表者とのパネルトーク



2. ちい1グランプリ

(エントリー団体)

- ① 赤須企画事務所
- ② おいCまち内灘
- ③ 金沢もてなし隊
- ④ 株式会社ガクトラボ
- ⑤ くくり村ー徳山ー
- ⑥ 志賀町まち・いえ・ひとづくり協議会～里山子育てママカフェ～
- ⑦ 中庄町丸いも倶楽部
- ⑧ 能登島オリーブの会
- ⑨ 北陸学院大学よりそいの花プロジェクト
- ⑩ 南加賀地域子ども体験推進協議会
- ⑪ 福祉KtoY

※エントリー団体「まち活かなざわ」が担当者の病欠につき不参加となり、急ぎよ飛び入りの申し出を受けて「福祉KtoY」（金沢大学学生を中心に福祉業界のイメージ向上に向けて活動をしている団体）がエントリーした

(1) ステージCMタイム

エントリー団体が各自持ち時間 3 分以内で、自身の活動紹介をし、ブース訪問や投票を促すことを目的とした。

(2) ブースPRタイム（投票タイム）

各自のブースで来場者の共感を得られるよう、自由に活動の目的や意義などをPRした。エントリー団体も合間を見つけて他の団体の活動PRを聞きに行くなどしており、この時間でも交流が図られた。

ブースプレゼンタイム中にステージ上に投票所を開設し、来場者が受付で受け取った投票券（スーパーボール）を支援したいと思う団体の投票箱へ投票。1 団体に絞り切れない来場者は、受付で追加投票券を購入し、複数の団体へ投票を行い、各団体は、獲得したボール1 個当たり500 円の寄付金を得た。



(1) パネルトーク「地域づくりトークライブ」

進行：赤須治郎 石川地域づくり専任コーディネーター
パネラー：濱 博一 石川地域づくり専任コーディネーター
森山奈美 石川地域づくり専任コーディネーター
村本睦子 石川地域づくり専任コーディネーター
大地美子 石川地域づくりコーディネーター
長澤幸乃 石川地域づくりコーディネーター

地域づくりコーディネーターの紹介を行った後、県下の地域づくりにおける課題の抽出、さらに地域づくり活動に興味を持ってもらうことを目的にパネルトークを実施。なお、トークテーマは「石川の地域づくりは〇〇」、「地域づくりコーディネーターは〇〇」、「地域づくりがつまらないのは〇〇」、「いま注目の地域づくりは〇〇」とした。

会場から質疑応答の際に「ちい1グランプリ」に対する事前告知不足や順位をつけ競わせる形式についてエントリー団体から意見が挙がり、急きょ参加者全体を巻き込んでの議論が行われた。競技形式をとることについては、他のエントリー団体や参加者からは賛同の意見が多かった。

(2) ちい1グランプリ結果発表

壇上に投票箱を並べ、エントリー団体毎に投票箱を開けて、投票されたボールの数をカウントし、上位3団体を決定した。上位3団体には表彰状と副賞として、コーディネーター派遣権とH29年度石川地域づくり表彰の選考に挙がる権利を得られた。

- 1位 能登島オリーブの会
- 2位 福祉KtoY
- 3位 くくり村ー徳山ー



4. 交流会

エントリー団体、参加者、運営委員、コーディネーターらによる交流会を行った。

■振り返り

準備の遅れや、初めての取り組みに対して協議時間が足りなかったことなどから、事前告知が不十分であったが、ちい1グランプリでは学生団体のエントリーがあり、これまでになく幅広い世代や立場の活動家が集い、新たな可能性を感じる機会となった。